

## 気持ち高まる、高松。

標題は、「感動」と「幸福」(合わせて「感幸(かんこう)»)をキーワードに全国に公募して決まった高松市の観光キャッチコピーです。通年で使用していますが、春爛漫(らんまん)のこの季節に最も似つかわしいように思います。高松のまちの明るさや楽しさ、人の温かさとともに、訪れる際のワクワクする感じが伝わってくる素敵なコピーだと思います。このコピーとそれに合わせて決定した下掲のロゴマークは、広く事業者や市民の方々にも活用していただき、官民が一体となった、より魅力的なまちづくりや観光振興につながればと期待しています。

これからの人口減少社会において、地域の持続可能な発展を図っていくためには、交流人口の拡充の中心的役割を果たす観光振興は非常に重要です。「観光」の語源は、中国の「易経(えききょう)」の中に出てくる「観国之光 利用賓于王」(国の光を観るは、もって王のたるによろし)というもの。含意は少し異なるものの、それが英語の「ツーリズム」の訳として当てられるようになり、今の意味で一般に使われだしたということです。

ところで、現代の「観光」に通じる旅のルーツは古く、古代ギリシャにおいて既に見られたそうです。紀元前776年から開かれたオリンピアの競技大会へ古代ギリシャ人は見物に出かけています。今のスポーツ観光の原点というべきものです。また、エーゲ海の島々に転地保養に行ったと伝えられています。これは瀬戸内国際芸術祭の開催される島々を巡る旅に相通じるものがあります。さらにはギリシャ各地に神殿が数多く建設され、参詣者が多数集まり、彼らは沿道の民家でもてなしを受ける習慣があったそうです。その歓待の精神は「ホスピタリタス」と言われて最高の美德とされたということです。まさに四国遍路のお接待、おもてなしの心につながります。

高松においてもインバウンド(外国人観光客)が急速に増えています。また、来年は瀬戸内国際芸術祭、2020年は東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。古代ギリシャから続く人の旅の歴史に学び、ホスピタリティの精神を大切にしながら、真の「気持ち高まる、高松。」を実現していきたい、と思います。

※ 日本大百科全書(小学館)の「観光」の項目解説から一部を引用しています。